

2月 不登校状態を脱したきっかけ

不登校状態を脱するきっかけ、その前触れとして有名なセリフがあります。それは、こども自身が「ヒマだ、ヒマだ」と言い出すことです。

家庭のなかなど本人が安心できる場所で、退屈を示す言葉を連呼し始めると、本人がその後、大きな動きを見せるようなことがあります。「大きな動き」とは、進学や学校復帰など、目先の小さな一歩ではありません。その子の人生にとって、かけがえのない出会いや一歩につながる動きです。

私が取材したケースで言うと、「ヒマすぎる」とくすぶっていた子が世界一周の船旅（ピースボート）に出て、帰国後、ピースボートに就職した人がいました。「やることがない」と毎日のようにつぶやいた少年は、ある日、家で料理を作り始め、凝りに凝って、のちにフランスの一つ星レストランでシェフをやるようになったという話もあります。

「ヒマだ」という言葉は、本人が現状に受けて不満を持っていること。裏を返せば「もっと満足したいんだ」という願望の現れです。なお、そこに至るまでは十分な休息が必要です。

休息をしているあいだ、周囲は不安なものですが、ぜひ「ヒマだ」という言葉がでたら、「もしかしたら変化の合図？」と感じてもらえたらと思います。

(不登校ジャーナリスト・石井しこう)

令和6年度のメルマガは、今回が最終回です。毎月ご高覧いただき誠にありがとうございました。